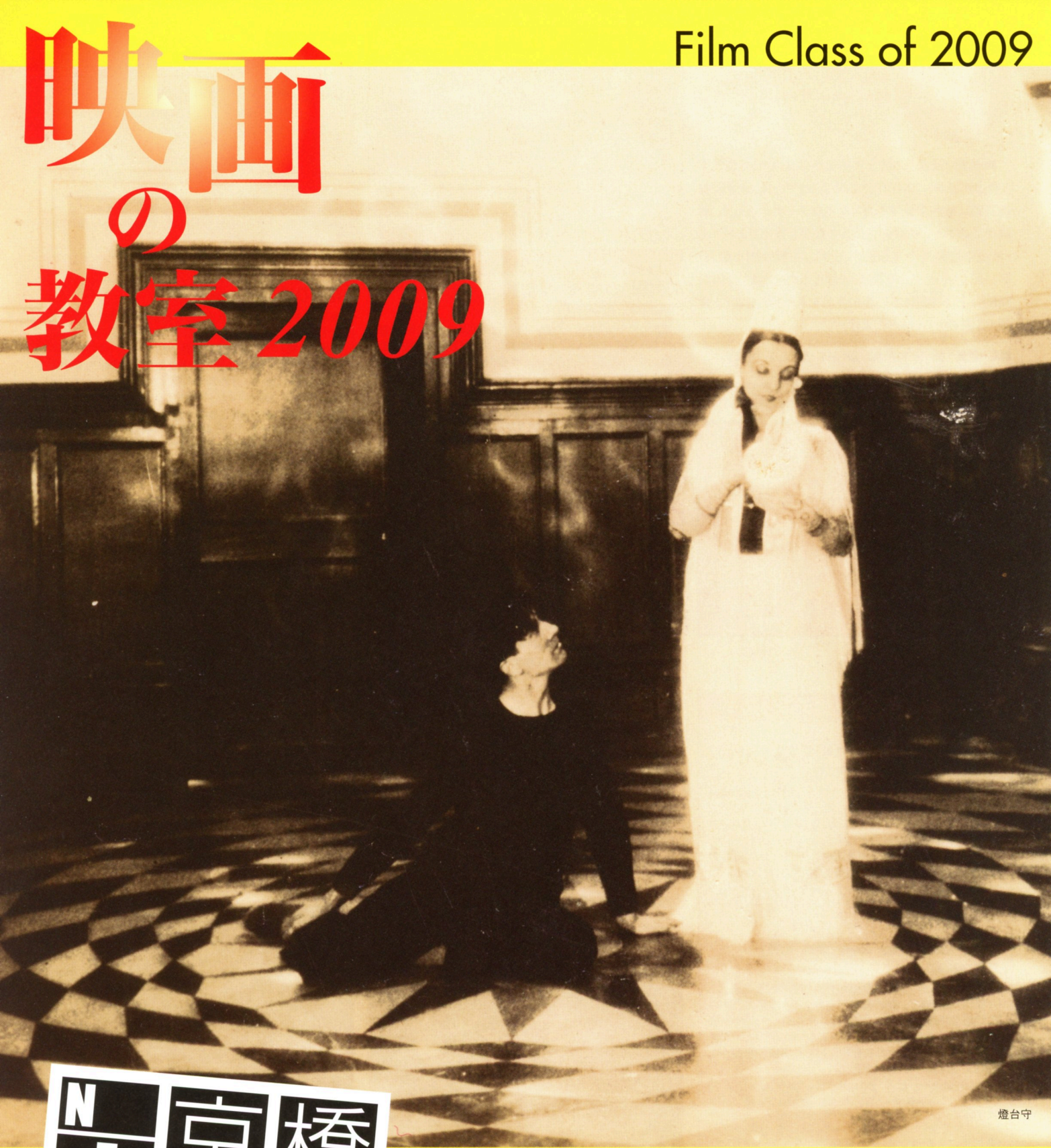


映画 の 教室2009



燈台守

N	京	橋
F	映	画
C	小	劇
小ホール	場	
KYOBASHI-ZA		No.15

2009年 9月11日(金) - 9月27日(日)

※金曜日・土曜日・日曜日の上映となります。

東京国立近代美術館フィルムセンター 小ホール(地下1階)

開映後の入場はできません。

定員=151名(各回入替制)

発券=地下1階受付

料金=大学・高校生300円

一般500円/シニア300円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)は無料

- ・観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- ・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- ・学生、シニア(65歳以上)、障害者の方は、証明できるものをご提示ください。
- ・発券は各回1名につき1枚のみです。

東京国立近代美術館フィルムセンター
National Film Center
 The National Museum of Modern Art, Tokyo

小ホール 上映作品

映画の教室2009
Film Class of 2009

映画史を飾る古典的な作品をフィルム上映で鑑賞する機会が減少している中、フィルムセンターは、新たに映画芸術に触れようとする方々を主なターゲットとして、所蔵作品の中から映画を学ぶ上で重要な秀作を上映する「映画の教室」を今年も開催します。《京橋映画小劇場》第15回企画となるこの「映画の教室2009」では、外国映画6本、日本映画4本の計10作品を上映いたします。皆様のご来場をお待ち申し上げます。

- 監=監督 原=原作・原案 脚=脚本・脚色 撮=撮影
- 美=美術 音=音楽 出=出演
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものとは多少異なることがあります。

●《京橋映画小劇場》とは

平成18(2006)年度よりフィルムセンターは、それまで教育機関のための特別映写や一部の共催事業の会場として使用されてきた小ホールを、《京橋映画小劇場》(KYOBASHI-ZA)の名のもと、年に数回、フィルムセンターの主催上映企画にも利用し、さらなる上映活動の拡充を図っています。

フィルムセンター所蔵作品の公開を中心に、外部団体との共催企画も引き続き模索しつつ、多彩な上映企画の実現を目指します。大ホール・展示室企画ともども、皆さまのご来場を心よりお待ちしております。

◆外国映画

1 9/11(金)2:00pm 9/19(土)3:00pm

ドリーの冒険

(12分・16fps・35mm・無声・白黒・日本語字幕なし)
THE ADVENTURES OF DOLLIE

ジブシーによる少女の誘拐とその意外な結末。物語映画の技法を発明し「アメリカ映画の父」と称されるD・W・グリフィスが、パイオグラフ社で撮った監督第1作。クロスアップやアイリスショットなどのテクニクは使われていないが、少女をのせた樽が川を流れるシーンなど、観客の感情移入を誘うことを意識した撮り方がなされている。

'08(アメリカ) 監=ディビッド・W・グリフィス 脚=アーサー・マーヴィン 出=アーサー・ジョンソン、リンド・アーヴィドソン、チャールズ・インズリー、マデリン・ウェスト

チート(59分・18fps・35mm・無声・染色)

THE CHEAT

有閑夫人イーディスは浪費癖がたたって残忍な東洋人トリ(早川)に借金し、思わぬ辱めを受ける。日系人たちの間では「国辱映画」として問題視されたが、ハリウッド草創期を代表する監督セシル・B・デミルの力強い演出による、早川雪洲の堂々たる出世作。夫人が焼印を押される場面、法廷シーンなどは圧巻。

'15(アメリカ) 監=セシル・B・デミル 脚=ジニー・マクファーソン、ヘクター・タンブル 出=アルヴィン・ワイコフ、ウィルフレド・バックランド、ファニー・ウォード、ジャック・ディーン、セシリー・ハヤカワ(早川雪洲)、ジェームズ・ニール、ジャック・ユタカ・アベ(阿部豊)、ダナ・オング、ヘーゼル・チルダース、レイモンド・ハットン、ディック・ラ・レノ、ルシエン・リトルフィールド

	金曜日	土曜日	日曜日
9月	2:00pm 1 チート 他	0:00pm 3 諜報員	0:00pm 6 浪華悲歌
	6:00pm 2 燈台守	3:00pm 5 鏡の中の女	3:00pm 4 渇き
	2:00pm 9 山の音	0:00pm 8 晩春	0:00pm 2 燈台守
	6:00pm 7 花ちりめ	3:00pm 1 チート 他	3:00pm 5 鏡の中の女
	2:00pm 3 諜報員	0:00pm 6 浪華悲歌	0:00pm 7 花ちりめ
	6:00pm 4 渇き	3:00pm 9 山の音	3:00pm 8 晩春

2 9/11(金)6:00pm 9/20(日)0:00pm

燈台守(82分・18fps・35mm・無声・染色) GARDIENS DE PHARE

狂犬病にかかって苦悶する小島の燈台守をめぐる悲劇。前衛、ドキュメンタリー、商業映画を自在に横断した映画作家ジャン・グレミヨンの幻想的な作品。脚本は『外人部隊』(1933年)『ミモザ館』(1934年)などで知られるジャック・フェデーが担当している。

'29(フランス) 監=ジャン・グレミヨン 脚=ポール・オーティエ、P・クロクモン 出=ジャック・フェデー、ジョルジュ・ベリナル、ほか 出=アンドレ・バルザック、ジャンニカ・アタナシウ、ガブリエル・フォンタン、ヴィタル・ジェイモン、ポール・フロメ

3 9/12(土)0:00pm 9/25(金)2:00pm

諜報員(92分・35mm・白黒) ПОДВИГ РАЗВЕДЧИКА

第2次世界大戦中、ソ連軍の少佐が敵国ドイツの司令部にスパイとして潜入し、いくつもの危機をすり抜けて使命を果たそうとする。様々なジャンル作品に取り組んだソ連の娯楽映画王ボリス・バルネットの作品で、ヒッチコックやラングのサスペンス映画を彷彿とさせるスリルたっぷりの活劇。

'47(ソ連) 監=ボリス・バルネット 脚=ミハイル・ブレイマン、コンスタンチン・イサーエフ、ミハイル・マクハルスキー 出=ダニール・デムツキー、モリツ・ウマンスキー、ドミトリー・クレパーノフ、オスカール・サンデル、パーヴェル・カードチニコフ、ヴィクトル・ドヴロヴォルスキー、ミハイル・ロモノフ、ドミトリー・ミリュテンコ、ビョートル・アルジャノフ

4 9/13(日)3:00pm 9/25(金)6:00pm

渇き(147分・35mm・白黒) PYAASA (THE THIRSTY ONE/ETERNAL THIRST)

インド・ヒンディー語映画の名監督G・ダットの代表作。貧しい詩人と娼婦が詩を介して心を通い合わせるが、俗悪な世間が詩人を追い詰めてゆく。挿入歌がいずれも印象的。主演女優W・ラフマンはG・ダット作品のミュージックで、彼の自伝的作品『紙の花』(1959年)等でも共演している。

'57(インド) 監=G・ダット 脚=アブラール・アルヴィー、V・K・ムルティ 出=ビレーン・ナグ、サチン・デーウ・バルマン、ウィヘーダー・ラフマン、マラー・シンハー、ラフマン、ジョニー・ウォーカー

5 9/12(土)3:00pm 9/20(日)3:00pm

鏡の中の女(120分・35mm・カラー) ANSIKTE MOT ANSIKTE

何不自由ない生活を送る精神科の女医エニーだが、引越を境に奇妙な体験を重ね、自ら精神を病んでゆく。人間の自意識を超えたものとの葛藤を見つめたイングマル・ベルイマン監督の一篇。本作により、監督と主演のリヴ・ウルマンはそれぞれ監督部門、女優部門でアカデミー賞にノミネートされた。

'75(スウェーデン) 監=イングマル・ベルイマン 出=スヴェン・ニクヴィスト、チェビー・ラレテ、リヴ・ウルマン、エルランド・ヨセフソン、グンナール・ビョルンストランド



チート

◆日本映画

6 9/13(日)0:00pm 9/26(土)0:00pm

浪華悲歌(71分・35mm・白黒)

溝口健二の第一映画入社第1作。家族を救うため詐欺にまで手を染めたアヤ子(山田)だが、やがて警察からも身内からも追いつめられてゆく。溝口は、舞台の大阪が持つローカルな気質と近代都市のモダンな雰囲気を知りかたえ、以後の作品にも通ずるリアリズムを提示した。

'36(第一映画) 監=溝口健二 出=依田義賢、三木稔、山田五十鈴、梅村蓉子、大倉千代子、大久保清子、浅香新八郎、志賀酒家辨慶、進藤英太郎、田村邦男、原健作、橋光造、志村喬、竹川誠一、滝沢静子

7 9/18(金)6:00pm 9/27(日)0:00pm

花ちりめ(74分・35mm・白黒)

森本薫の同名小説を原作とした石田民三の代表作。混迷する幕末の世が、祇園のお茶楼を営む母(花井)とその娘(三條)の葛藤を通して描かれている。男の存在をすべて声のみで示し、登場する女たちの動きのみで社会の混乱を描くという、きわめて大胆な演出となっている。演出補助に市川崑もクレジットされている。

'38(東宝京都) 監=石田民三 出=森本薫、山本紫郎、町井春美、加東安英、伊藤京二、三條利喜江、花井蘭子、一ノ瀬あや子、水上玲子、江島瑞美、林喜美子、堀越節子、里見良子、伊井吟子、成瀬富士子

8 9/19(土)0:00pm 9/27(日)3:00pm

晩春(108分・35mm・白黒)

やもめの父(笠)と、父を思っで嫁ぐ気になれない娘(原)の、深い親子愛が描かれる。小津の戦後3作目で批評面でも興行面でも高い成績を取った作品。久々に仕事をともにした監督と脚本家・野田は、以後コンビとして全小津作品を手がけることとなる。スタイルの確立を見せた本作は、小津のフィルムグラフィに大きな区切りを作った。

'49(松竹大船) 監=小津安二郎 出=廣津和郎、野田高梧、厚田雄春、演田辰雄、伊藤京二、笠智衆、原節子、月丘夢路、杉村春子、青木放屁、宇佐美淳、三島邦子、三島雅夫、坪内美子、桂木洋子、清水一郎、谷崎純、高橋豊子、紅沢葉子

9 9/18(金)2:00pm 9/26(土)3:00pm

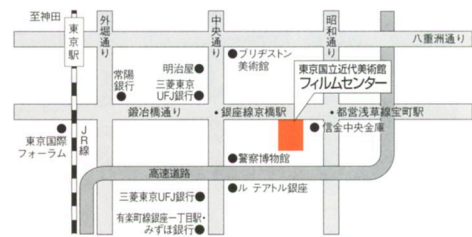
山の音(94分・35mm・白黒)

不倫する夫(上原)に相手にされぬ嫁(原)と、彼女を不憫に思う男(山村)の間の、淡い恋にも似た心の交流が描かれる。川端康成の小説が原作。あたかもロケーション撮影に見える路上シーンに使用されたオープンセットは、中古智美美術スタッフの技術力の高さを伺わせる。

'54(東宝) 監=成瀬巳喜男 出=川端康成、水木洋子、玉井正夫、中古智、齋藤一郎、原節子、山村聰、上原謙、杉葉子、長岡輝子、丹阿彌谷津子、中北千枝子、角梨枝子、十朱久雄、北川町子、金子信雄



浪華悲歌



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:
東京外口銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分
東京外口有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600
NFCホームページ:
<http://www.momat.go.jp/>
NFC携帯電話ウェブサイト:
<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

